

〈資料〉

浦和大学短期大学部介護福祉科における 卒業時全国共通試験の取り組み

浦和大学短期大学部介護福祉科

南館こずえ 松寄 久実 城 正子
嶋田美津江 高松 節子 山本みよ子
米岡 学 岡田 圭祐

目次

1. はじめに
2. 介護福祉科2年生に対する卒業時全国共通試験の取り組み
3. 介護福祉科1年生に対する卒業時全国共通試験の取り組み
4. まとめ
5. おわりに

1. はじめに

卒業時全国共通試験は、介護福祉士の養成教育機関の目標到達度評価のため1997年度から実施されている。今年度は、2009年2月18日（水）に全国の養成機関で一斉に実施された。

浦和大学短期大学部（以下「本学」と略記）介護福祉科は、卒業生が介護福祉士としての専門性を発揮し、介護を必要とする人々に対して生活支援できる資質を養成するために、卒業直前に専門性の前提となるべき知識・技能の習得を確認する取り組みとして、筆記試験と実技試験を実施している。本年度は、筆記試験を2月18日（水）に、実技試験を2009年2月3日（火）に実施した。

本稿では、筆記試験に対する本校の取り組みを振り返ることとする。本学介護福祉科としては、学生が卒業時全国共通試験の意義を理解し、学内で実施される模擬試験、筆記試験対策講座に積極的に取り組み、自主的に試験対策に取り組めるように期待し、行ってきた。2008年度については、学年ごとに異なった対策が実施された。そこで、まず2年生に対して実施された取り組み、次に1年生に対して初めて実施した取り組みを振り返りたい。

2. 介護福祉科2年生に対する卒業時全国共通試験の取り組み

2年生に対する取り組みは、卒業時全国共通試験対策講座と模擬試験の実施の二つの要素で構成されている。

2.1 卒業時全国共通試験対策講座の実施と学生評価

卒業時全国共通試験対策講座（以下、対策講座）の実施にあたり、学科で問題集を選定し、学生に講座に対し問題集を購入するように呼びかけた。学生に対し、卒業時全国共通試験とは何か、対策講座では何をするのかを説明するために、オリエンテーションを9月29日（月）の1時間目を実施した。卒業時全国共通試験の試験科目、合格基準、今後実施される対策講座の日程について説明をした。

以下に、講座の日程をあげる。10科目について、学科の教員が対策講座を担当した。昨年度は8教科の実施であったため、「高齢者・障害者の心理」と「家政学概論」の2教科の対策が新たに設けられた。

- 9月29日 対策講座（オリエンテーション）
- 10月 6日 対策講座（障害者福祉論）
- 10月20日 対策講座（形態別介護技術）
- 10月27日 対策講座（介護技術）
- 11月10日 対策講座（医学一般）
- 11月17日 対策講座（老人福祉論）
- 11月24日 対策講座（介護概論）
- 12月 1日 対策講座（社会福祉概論）
- 12月 8日 対策講座（社会福祉援助技術論）
- 12月15日 対策講座（高齢者・障害者の心理）
- 12月22日 対策講座（家政学概論）

対策講座への出席は、学生にとっては他の授業と意識が異なり、講座の意義を理解し自主的に出席する事になる。10月6日に実施した講座への出席者は48人で、出席率は72.7%であった。12月8日は、43人出席（65.1%）、講座の最終日である12月22日の出席者は、38人（57.6%）であった。徐々に出席率が下がってしまう結果となったが、月曜日の1時間目を実施された自主講座への出席は5割以上となった。

卒業前に「学生生活振り返りアンケート」を実施し、対策講座に対する学生評価を行った。対策講座は効果があったかという質問に対し、「とてもあった」と回答したものは17.46%であった。「少し効果があった」という回答が最も多く69.84%で、「なかった」という回答は12.70%であった。学生評価としては、効果があったもしくは少しあったという評価が、87.3%となった。

表1 対策講座に対する学生評価

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とてもあった	11	17.5	17.5	17.5
少しあった	44	69.8	69.8	87.3
なかった	8	12.7	12.7	100.0
合計	63	100.0	100.0	

次に、使った問題集に関する質問では、「とても良かった」という回答は、14.29%であった。「まあ良かった」という回答が最も多く、65.08%であった。「良くなかった」という評価は、20.63%であった。この質問についても、79.37%がとても良かった、まあ良かったと評価したことになる。使用した問題集は、価格が3900円であったため、他の問題集と比べると高めではあった。選定にあたっては、各教

科の復習の際に、「必須知識」で詳細な解説があるため学生にとっては活用しやすいのではないかと、また、過去の問題の解説も掲載されていることを理由にしたが、学生にとっては高いこと、あつくて重いことなど、対策講座の講義中に不満が聞こえてきた。新年度の教科書選定の際に、学生の評価を踏まえて考慮することにしたい。

表2 問題集に対する学生評価

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とても良かった	9	14.3	14.3	14.3
まあ良かった	41	65.1	65.1	79.4
良くなかった	13	20.6	20.6	100.0
合計	63	100.0	100.0	

2.2 模擬試験の実施と学生評価

2008年度は、2年生に対して2月の本試験前までに3回の模擬試験を実施した。以下に日程を示す。

1回目模擬試験 4月16日（水）

2回目模擬試験 12月19日（金）

3回目模擬試験 1月17日（土）

学生にとっては、4月に実施した1回目模擬試験ではじめて卒業時全国共通試験を全教科受験することになった。この時点では、2年生時に学ぶ教科について学習が終了していないため、総合点からそれらの教科をはずして学生に成績を返却した。学生が、卒業時全国共通試験を本試験の時間配分、採点方法で体験するのは、2回目の模擬試験以降である。

今年度からはじまった新しい取り組みとして、学生に返却する模擬試験の結果について、前回の成績と比較できるように視覚的にグラフで示すように工夫した（後出資料「学生配布用の模擬試験結果」参照）。この試みによって、学生が各自の学習の成果を比較できるようになるため、自主的な学習を習慣づける効果を期待し導入することになった。

模擬試験に対する学生の評価を次の表で示した。模擬試験が「とても良かった」と評価したのは、38.05%であった。「まあ良かった」という評価が最も多く、52.38%であった。「良くなかった」という回答は、9.52%であった。「とても良かった」「まあ良かった」という回答の合計は、90.48%となる。

表3 模擬試験に対する学生評価

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とても良かった	24	38.1	38.1	38.1
まあ良かった	33	52.4	52.4	90.5
良くなかった	6	9.5	9.5	100.0
合計	63	100.0	100.0	

学生の模擬試験に対する評価は、比較的高いものとなったが、模擬試験への学生の出席率は残念ながら低い結果であった。12月19日に実施した2回目模擬試験は、出席者が48人であった。欠席者は、21人であったことから、学科会議で対策を協議することになった。その結果、1月15日に追試模擬試験を

実施することになり、学生に対して模擬試験実施の意義を再度説明し、再度模擬試験を実施した。

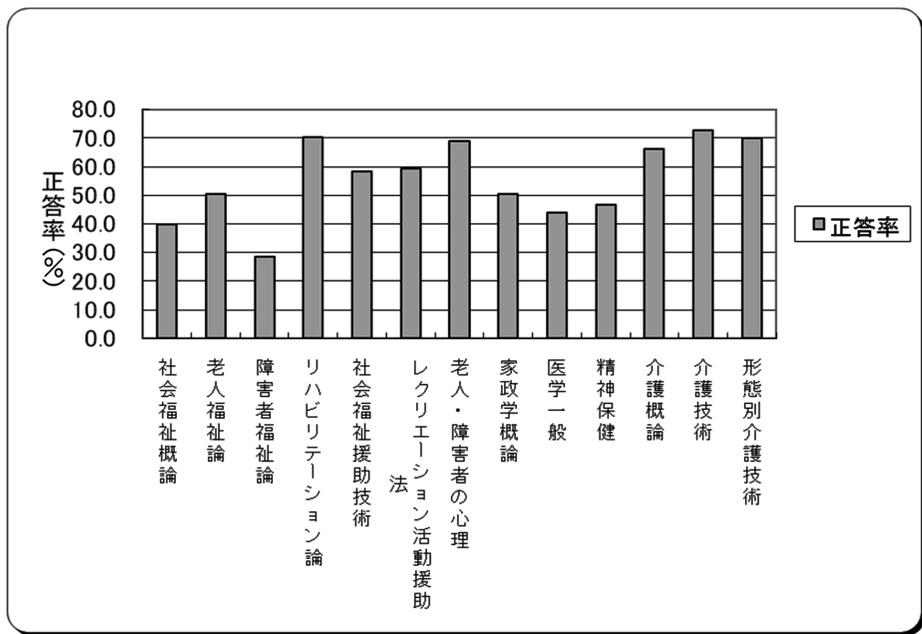
2.3 本試験の実施

平成20年度の卒業時共通試験の結果は、35名合格（受験者数66名）で53.0%であった。分野別の正答率は、以下の表・グラフのとおりである。

表4 卒業時共通試験の分野別の正答率

分野名	正解数	回答数	正答率	問題数
社会福祉概論	210	528	39.8	8
老人福祉論	331	655	50.5	10
障害者福祉論	74	259	28.6	4
リハビリテーション論	183	260	70.4	4
社会福祉援助技術	303	520	58.3	8
レクリエーション活動援助法	232	390	59.5	6
老人・障害者の心理	358	520	68.8	8
家政学概論	263	520	50.6	8
医学一般	347	792	43.8	12
精神保健	123	264	46.6	14
介護概論	350	528	66.3	8
介護技術	960	1317	72.9	20
形態別介護技術	919	1314	69.9	20

図1 分野別の正答率



3. 介護福祉科1年生に対する卒業時全国共通試験の取り組み

本年度は、1年生に対して初めて共通試験対策を実施することになった。「共通試験対策模擬テスト100問」とし、学習が終了している科目と範囲を確認し、「社会福祉概論」、「老人福祉論」、「社会福祉援助技術論」、「レクリエーション活動援助法」、「医学一般」、「介護概論」について100問の試験問題を学科の教員が作成し、実施した。第2回目の模擬テストには、第1回目の科目に「家政学概論」を加えて、100問の模擬試験を作成した。問題を作成する際には、過去の介護福祉士の国家試験を参考にして、問題を作成した。学生に対して、国家試験の参考書や問題集を購入し勉強すること、前期や後期に学習した内容を振り返るようにアドバイスした。また、8割が合格ラインであることを伝えた。模擬テストで、8割以下になった場合には、同日再試験を実施することも伝えた。模擬テストの実施日は、以下の日程である。

12月19日 第1回 模擬テスト100問

2月18日 第2回 模擬テスト100問

2回目のテストの実施日を2年生の卒業時共通試験の日と重ね、翌年の同時期に卒業時共通試験を受験することになる実感と目的意識をより明確に持てるように企画した。

第1回目の模擬テスト8割合格者は、21名（受験者数40名）であった。平均点は、第1回目は73.6点であった。第2回目は、家政学が加わり7科目の模擬試験となった。合格者は13名（受験者数33名）であった。第2回目の平均点は76.9点であった。第2回目で8割合格とならなかった学生および欠席者については、2009年度が始まってから再再試験の実施を予定している。

4. まとめ

4.1 対策講座・模擬試験と本試験の結果分析

「学生生活振り返りアンケート」で、対策講座に対する学生の評価ごとに、本試験の平均点を出した。対策講座に対して「効果があった」と評価した学生の方が、平均点が高くなるという結果になった。

表5 対策講座に対する学生評価と本試験の結果

対策講座に対する学生評価	本試験の平均点	本試験合格者人数
とても効果があった	78.3点 (10人)	9人 / 10人
少し効果があった	70.7点 (45人)	24人 / 45人
効果がなかった	64.8点 (8人)	2人 / 8人

次に、模擬試験に対する学生の評価ごとの本試験の平均点を以下の表にした。対策講座の学生評価と本試験の結果と同様に、模擬試験の実施が必要だったと評価する学生の方が、平均点が高くなった。

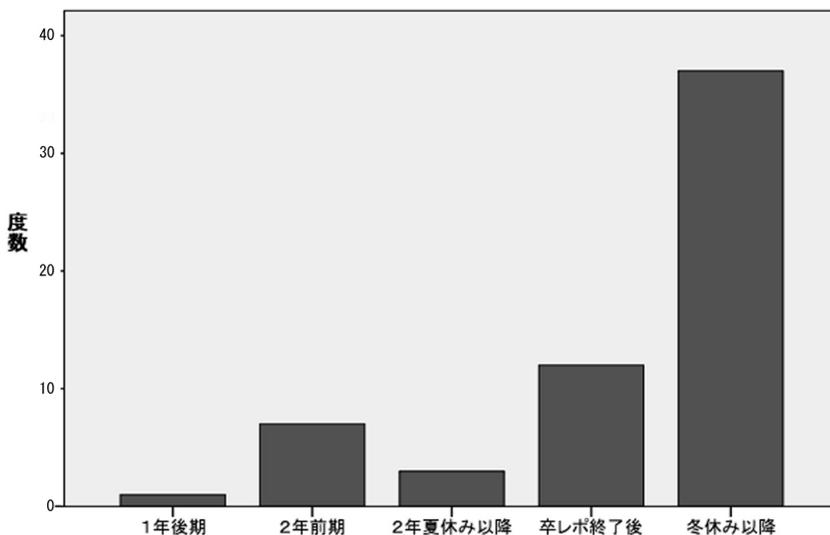
表6 模擬試験に対する学生評価と本試験の結果

模擬試験に対する学生評価	本試験の平均点	本試験合格者人数
とても良かった	77.3点 (21人)	18人 / 21人
まあ良かった	68.4点 (27人)	15人 / 27人
良くなかった	65.8点 (6人)	3人 / 6人

対策講座や模擬試験に対して、「とても効果があった」「とても良かった」と評価した学生については、本試験の合格者が多いことがわかった。これに対し「少し効果があった」「まあ良かった」と評価した学生の本試験の平均点が、合格点に届かない結果となった。「効果がなかった」「良くなかった」と評価した学生の平均点は、さらに低く、合格点に届いていない。合格点に届いていない2つの群から、より多くの合格者を出すには、学生がどのような支援を欲していたのかを詳細に検討する必要があると考える。

アンケートでは、卒業時全国共通試験について、いつから勉強をはじめたのかを聞いています。その回答では、「冬休み以降」という回答が最も多く61.67%であった。次に多かった回答は、2年生の後期に取り組んだ「介護福祉実践研究レポート」の作成が終了した後でと回答した者で20.0%であった。学生の約8割は、2年生の後期、12月以降から実際に試験勉強を開始したことになる。しかし、2008年度に実施した対策講座は、既に述べたように、年末に終了し、12月22日の最終対策講座の出席率は57.6%であった。また、12月19日に実施した2回目模擬試験は、出席者が43.8%で、あまりに欠席者が多かったことから追試を実施した。これらの事実を総合すると、対策講座の開催時期は冬休み以降である方が、学生のニーズに合致していると思われる。

図2 卒業時共通試験の勉強開始時期



アンケートでは、後輩への勉強アドバイスを自由回答できいた。以下が、自由回答の一部である。

- ・毎日教科書に目を通す
- ・早くうちから勉強した方がよい
- ・間違えたところを見直す
- ・模擬試験や講座を真剣に受ける
- ・根を詰めるような学習法は逆に覚えられない事が多いので、その日一日、30分程度の復習をするのでも結構覚えられる
- ・よく授業をきくことが大切だと思いました
- ・普段の授業をちゃんと聞く
- ・模擬試験は見直した方がよい
- ・試験後の見直し

学生が本試験までの過程を体験し、その体験の中から、後輩学生に対するアドバイスを記述してもらった。意見を見ると、模擬試験を復習した方が良いというアドバイスが複数ある。また、間違えたところを見直すというアドバイスもある。すべての学生が、効率よく試験対策に取り組めるようにするためには、どのように勉強をするべきなのかを的確にアドバイスする機会を設ける必要があると思われる。また、2008年度は模擬試験を実施することのみで終了してしまったが、模擬試験を復習できるように構造化する必要があると思われる。

4.2 授業の成績と本試験の結果分析

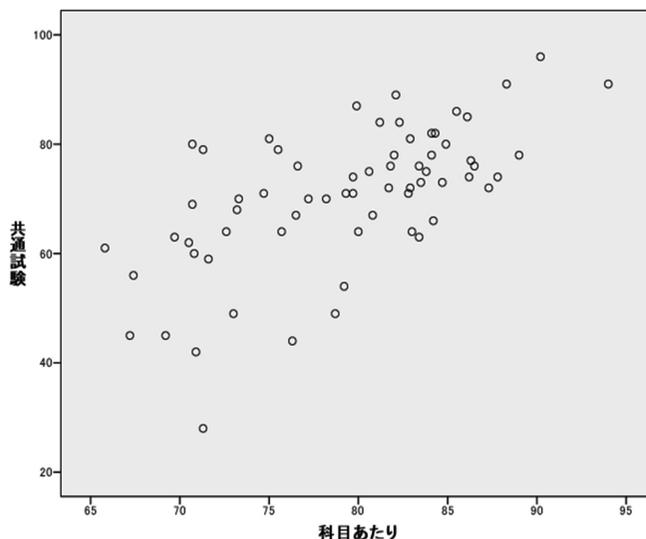
卒業時に介護福祉士としての専門性の基礎となる知識を着実に身に着けるためには、対策講座や模擬試験の実施も重要であるが、普段の授業で学習する知識をいかに定着させるのか、授業での学びの保障をしなければならないと考える。つまり、基本は授業で着実に知識を習得できるようにするべきで、科目を担当する教員は、日々努力しなければならない。次の表は、2年生の卒業時全国共通試験結果と授業成績（科目あたり）の相関関係を示したものである。

表7 2年生の卒業時全国共通試験結果と授業成績の相関係数

		共通試験	科目あたり
共通試験	Pearsonの相関係数	1.000	.637**
	有意確率（両側）		.000
	N	66	66
科目あたり	Pearsonの相関係数	.637**	1.000
	有意確率（両側）	.000	
	N	66	66

**相関係数は1%水準で有意（両側）である。

図3 2年生の卒業時全国共通試験結果と授業成績の相関



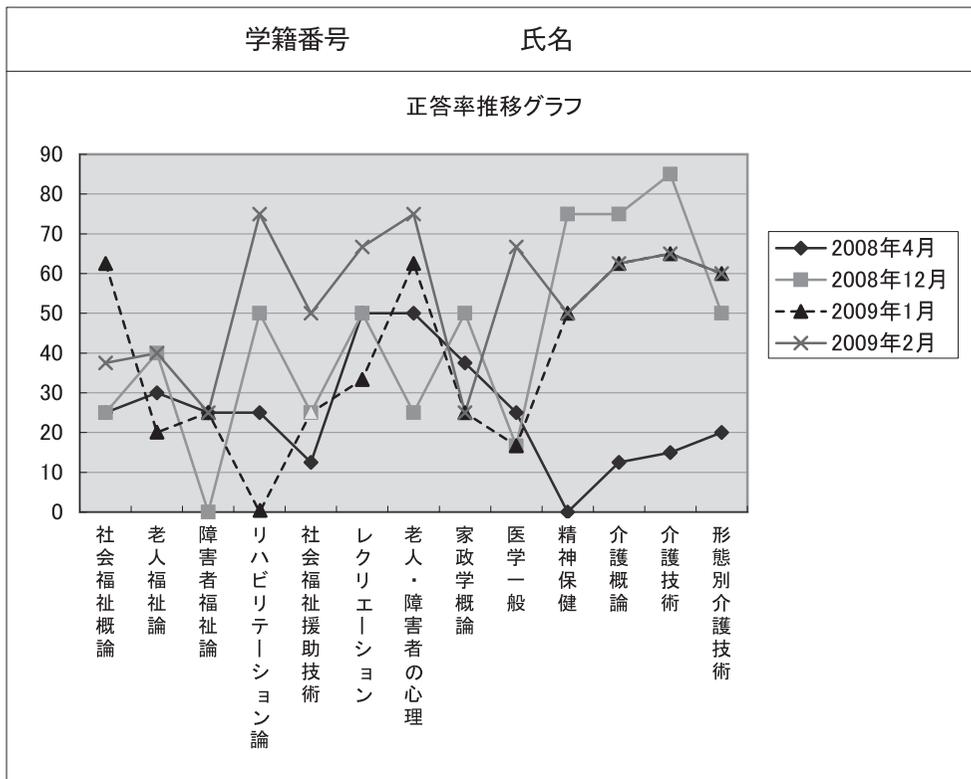
各授業の成績と本試験結果では、中程度の正の相関がある (0.637<0.8)。授業の成績は、2年間で取得した授業成績である。したがって、講義科目、演習科目も含む結果である。今後は、さらに、講義科目や演習科目、本試験に含まれる科目、その他の科目との相関を調べる必要があるが、介護福祉科での学びを各教科ごとに担保することが、各学生の本試験の成績向上につながると言えそうである。

さらに、各授業の学びの保障と同時に、学習内容を復習する機会を設けることが必要であると思われる。1年生に対して実施した「共通試験対策模擬テスト100問」は、この役割を担うことを期待し実施した。学生に対して、8割合格という目標を学生に提示し、1年次の授業の復習となるよう時期や試験の内容を吟味した。このテストに対する効果については、2009年度の2年生の成績や本試験結果の比較が必要になるため、今後の課題としたい。

5. おわりに

2009年度の1年生から、介護福祉科は新カリキュラムがはじまる。新しいカリキュラムでは、授業の総時間が増え、学生はさらに過密なスケジュールをこなさなければならない。このような中で、介護福祉科には、学生にとって有効で効果的な試験対策を提案し、学生の学びを保障することが課されている。介護福祉士の専門性の向上には、その基礎となる知識や技能の習得は欠かせないが、学生一人ひとりが自分に自信と誇りを持ち、豊かな学びの体験ができるよう支援することも同時に大切であると思われる。

資料 学生配布用の個人別模擬試験結果の例



得点推移

分野名	2008年4月	2008年12月	2009年1月	2009年2月
社会福祉概論	2	2	5	3
老人福祉論	3	4	2	4
障害者福祉論	1	0	1	1
リハビリテーション論	1	2	0	3
社会福祉援助技術	1	2	2	4
レクリエーション	3	3	2	4
老人・障害者の心理	4	2	5	6
家政学概論	3	4	2	2
医学一般	3	2	2	8
精神保健	0	3	2	2
介護概論	1	6	5	5
介護技術	3	17	13	13
形態別介護技術	4	10	12	12

正答率推移

分野名	2008年4月	2008年12月	2009年1月	2009年2月
社会福祉概論	25.0	25.0	62.5	37.5
老人福祉論	30.0	40.0	20.0	40.0
障害者福祉論	25.0	0.0	25.0	25.0
リハビリテーション論	25.0	50.0	0.0	75.0
社会福祉援助技術	12.5	25.0	25.0	50.0
レクリエーション	50.0	50.0	33.3	66.7
老人・障害者の心理	50.0	25.0	62.5	75.0
家政学概論	37.5	50.0	25.0	25.0
医学一般	25.0	16.7	16.7	66.7
精神保健	0.0	75.0	50.0	50.0
介護概論	12.5	75.0	62.5	62.5
介護技術	15.0	85.0	65.0	65.0
形態別介護技術	20.0	50.0	60.0	60.0

(2009年5月8日受領)